

## 平成25年度第5回景観審議会デザイン協議部会 会議要旨

### 1. 審議会（部会）の日時、場所、出席者、議事

(1) 開催日時 平成25年（2013年）10月4日（金） 午後1時30分～同3時30分

(2) 開催場所 宝塚ソリオホール 306会議室

(3) 出席者

- ・景観審議会デザイン協議部会委員  
徳尾野部会長、岩井委員、三谷委員、山崎委員
- ・事務局（都市整備部 都市整備室 都市計画課）  
西本課長、君田係長、谷口係長
- ・事業者  
議事① 事業者 伊藤忠都市開発株式会社  
設計者 ダイシン建築設計事務所  
議事② 設計者 株式会社D&D建築設計事務所

(4) 議事

議事① （仮称）宝塚湯本町プロジェクト

議事② （仮称）宝塚市雲雀丘2丁目計画（2回目）

(5) 傍聴者

なし

### 2. 会議の要旨

事務局：本日の審議会（部会）は、委員4名の出席であるので、宝塚市景観審議会規則第6条第2項の規定により成立する旨を報告します。

会長：了解しました。審議を開始します。

☆☆☆☆ （仮称）宝塚湯本町プロジェクト ☆☆☆☆

会長：開発事業の概要について説明を求めます。

設計者：計画の概要について説明します。

計画場所は、武庫川右岸にある護岸沿いになります。用途は、共同住宅で一部店舗、規模は地上18階地下1階、構造はRC造です。

土地利用計画は、公園用地を敷地南側道路沿いに配置しています。

周辺環境は豊かな自然に囲まれ、潤いと感性に満ち、阪神間モダニズムの近

代的な芸術・文化・生活様式が色濃く残る地域です。特に敷地は観光プロムナード内にあり新たなる住空間の在りようは、自然との関係性に加え、時間や歴史の重み、美しさ、味わいを再評価する必要があると解釈し、これからのライフスタイルの為に、恵まれた地域性を生かしながら、宝塚らしさを受け継ぐデザインを目指します。

敷地の利用について、道路境界から計画建物までは十分な距離を確保し、歩道とのつながりを意識した空間を計画しています。ピロティ部分や2階吹き抜けくらいの高さとなる車路については、南側道路から武庫川を望む抜けを意識しています。車路から続く駐車場は、地下に収まる様に計画をしています。

建築物の外観の意匠については、シンプルでありながらも存在感があり、永く親しまれる計画としています。メインファサードとなる南側は、アウトポールの躯体形状を活かすため、シンプルな構成とし上層部及び基壇部で色や質感の異なるタイルで分節し、落ち着き安定感のあるデザインとします。視覚的に分節化できるように、縦のラインを強調しています。北側は河川を望む住戸のバルコニーはガラス手すりとし、通路部分は縦格子としています。採用する色は、宝塚らしい色を周辺環境より読み取り、調和を図る配色計画としています。

植栽については、道路側においても活動空地や駐車場以外の利用上影響のない空間にはできる限り中高木を植栽していくことを考えている。護岸側は、潤いを確保するためにできる限り植栽を配置し、宝塚歌劇側が桜の咲きそろう時期があるため、それに合わせて極力植栽していきたい。

委員：説明書において、何箇所か「宝塚らしさ」との記述があるが、設計者として「宝塚らしい」デザインや色というものの根拠というものがあればお考えをお聞きしたいと思います。

設計者：今回この場所で計画するにあたって、観光プロムナードということにぎわいのあるイメージといろいろ周辺を見てみる中で、武庫川の川を挟んで緑豊かな、またいろいろな配色の建物があるものの宝塚大劇場の色が基調となっており、右岸の温泉側は少し濃い色という指導はあるが、全体としてその色を重視しています。後の細かいところは、明治の頃から昔の温泉情緒やぬくもりのある建物が多くあり、そうしたイメージを吸収して、外観やエントランスなどに生かしています。具体的にどれが宝塚らしいといわれると、外観の色として使う中で、陳腐化しないようにアクセントを持ったデザインとしていきたいと考えています。今回、武庫川への抜けは本当に必要だと考えており、通常は費用対効果から計画することはないが、今回は確保することでそのイメージに沿った計画となったと考えています。

委員：どういう風に「宝塚らしさ」というのを理解しているのかを伺いたかったた

めです。今回、ピロティを抜いていただいて、道路を通行している人が、武庫川を望むことが出来るように協力していただいたと思っています。

設計者：道路に面してが一番幅広い敷地になっています。そういう意味では、責任ではなく義務があると考えています。確保できてよかったと考えています。

委員：抜けをとって頂いたのはよかったですが、上から下までの板状というのが気になっています。付近写真の入れ込みでは、建物の角の部分が、こちらに向かっていくことがすごく気になります。この角の処理をどうするかということです。多くの方はアイレベルで見るため、その範囲の何階分かをもう少し角を和らげる形が考えられないかと思います。増し打ちして対応するなど方法はあると思うので、手法はお任せしますが検討していただきたい。

設計者：アイレベルで検証してみます。

委員：宝塚市の観光プロムナード沿いの景観のガイドラインについて、昨年まで検討してきましたので、今回の計画をどのようにまとめられるかが非常に興味がありました。確かに随所に苦労されているところがあり、結果としてみなさんから愛されるようになることが非常に大事であると思っています。敷地の利用について、東側の空を下りていくところは、公園が引き取って整備して将来的に河川敷に降りていけるということが出来なくて残念です。プロムナード沿いに公園を造ってもしょうがないなという思いがあるので、ただ将来どういう状況になるかわからないが、河川敷が下りていけるようになった場合は、貴重な階段やスロープですから、いい意味で協力をいただけたらいいなと思います。また、建物の抜けは非常に大事であるが、もう一つ建物と建物の間の抜けもとても大事である。この階段通路を下りていくところは、断面等で植栽の雰囲気等を示して、水辺に向けて演出されているが、西側の部分の空間はどのようななっているかが気になります。この部分は隙間のような空間となっているが、この街にとっては、非常に意味を持っている空きの空間なので、一度断面を切って倉庫のような状況になってしまうのか、耐えられる空間となりうるのか検討いただければありがたいと思います。

設計者：はい。

委員：提供公園は担当課と協議していると思うが、断面を見ると擁壁等の構造物で構成した部分に植栽するようになっています。奥はともかく道路沿いは、植えるにしてもグランドカバーのようなものとして、道路と高低差のない優しい感じになっていると良いと思います。また、スロープが道路沿い部分まであり、計画によってスロープ幅分くらいを道路から離すことによって広場と歩行者空間とが一体となるのでご検討いただきたいと思います。

設計者：善処します。

委員：ピロティで抜けたところは店舗への入り口で、その先はデッキとなっていて、これは一般の市民が行ってもいいような空間なんですね。

設計者：はい、そうです。

委員：是非、みなさんが憩えるような空間となるようにデザインしていただければとてもいいなと思います。

委員：車路の部分の柵のようなものはどういったものですか。

設計者：ロボットゲートになります。

委員：車路は大切な武庫川への抜けの部分であるため、その妨げにならないディテールで検討いただきたいと思います。

委員：ボリュームについては目いっぱい活用されており、かなりの迫力になると思うが、なんとかスカイラインを構成するトップのところのデザインを整形にカットするような形状とはせず、知恵を絞って工夫していただきたいなと思います。

会長：提供公園では、よく周囲をフェンスで囲ったようになっているがここはそういうことはないですか。

設計者：今の協議の中ではそういうことになってはいないです。

会長：であれば、歩行者空間の部分と一体的になって公園だけが別物という感じにはならないですね。

設計者：マンション側にはフェンスが出来てしまうが、道路側はそうなりません。立面図は当初の計画で、先ほどのご意見の通りできるだけグラウンドレベルに近い形で一体性を保つように考えます。

委員：構造的には難しいというのは承知の上で言わせていただくと、東面の住宅の部分は開口があるが、下のほうに行くと壁だけとなっています。南口から歩いてくると一番目にする部分での抜けとして、スリットのような開口が出来ないのでしょうか。少しでもあると光が入って壁一面の印象が和らぐと思います。

設計者：実際は19階の建物となるため、構造的にできないか、検討はしたが無理でした。

委員：妻側部分にある住戸の部屋の空調の室外機置き場はどこに設置されるのですか。

設計者：冷媒管を通して、バルコニーのほうに設置します。

委員：妻側にはバルコニー等は出てこないのですか。

設計者：バルコニー等は設置しません。川側にあるバルコニーは住戸にとっても居住する空間として必要なものと考えています。バルコニーを設置するために階段やエレベーターを余分に設置しています。今後計画していく上でコスト的にもこれで納まればと考えています。住戸プランを重視して両面バルコニーを考えておりますが、今後整理していくこととなります。

委員：重要度で言うと、真ん中よりも両端のバルコニーが大事ですね。

設計者：真ん中もほしいのですけどね。

委員：二棟あるエレベータータワーとその横にある非常階段との間にある部分にN4という非常に黒い色を塗ろうとしていますが、妙に黒いのが気になります。これだけ凹んだ部分になおかつ黒い色を塗ると、影プラスN4なのできついなあという印象です。もう少しはんなりとしたほうが、先ほどからおっしゃっている「宝塚らしい」と思います。引っ付けるわけにはいかないのですね。

設計者：引っ付けることは出来ません。色について考えます。

会長：全体的な色彩としてはどうですか。

委員：いままでのいろいろな内容をお考えいただいていると思います。ただ明度7は良いが、彩度2は白いと思います。大きいだけに白い感じがするので、彩度2.5くらいあるともうちょっと良いと思います。タイルは二丁掛けで釉顔系のものですね。

設計者：そうです。

委員：であれば、少し落ち着きがないし、目地も黒くはならないでしょうし、彩度2.5くらいの方が良いと思います。濃い色とのコントラストが大きいことも気になっています。全体的にもはんなりとした感じで、どちらかというと凛々しい感じになっています。

設計者：そうですね。実際のタイルの見本等で確認します。テクスチャーでもかなり違ってきますので改善します。

委員：最後ではないので、設計者の意匠的な意思に従って検討していただいたら良いでしょう。

委員：建築の図面はありますが、護岸についての図面がないのですが。一度見せていただきたい。

設計者：わかりました。基本的には今の護岸をそのまま延長するという計画です。またお見せします。

会長：階段は設置しないのですね。

設計者：設置しないです。

委員：マンションに使われる人の立場で言えば、「外の人も中の住民も市民」なのです。対岸からの景観のため北東側にサクラがたくさん植栽される部分は、非常用通路として閉鎖されているようですが、住んでいる人だけであっても春には花見が出来るような感じになれば良いと思います。住んでいる人が避難のためだけでなく、楽しめる空間になるようなアプローチが提案して欲しいです。また、将来に河川側に下りる階段などが出来れば、入りやすい空間として生かすことが出来ると思います。日本人であれば花見をしたいし、もし私がここを買うのであればうれしいなと思います。以前京都に住んでいたときに、近所にマンションが出来て、一番上から大文字が見えるので、近隣交渉の中で年1回だけその町内の人を招待して開放しますということをしていました。事業者として地域の文化に根ざした提案をしていただければおもしろいと思います。住んでいる人がすることではありますが、こういう想定もしているという設計者の思いやりもあればと思います。景観を楽しむという観点からお考えいただきたいです。

会長：店舗前の広場部分の床仕上げは何ですか。

設計者：今のところは、インターロッキング仕上げで、駐車場部分も同じです。スロープの部分は、コンクリート仕上げです。下りたところもアスファルトもしくはコンクリートになります。

会長：今回出たデザイン上の意見や事務局を通しての植栽の専門家の意見を踏まえて、その辺りを含めてもう一度見せていただきたいと思います。本日の審議はこれまでとします。

☆☆☆★ （仮称）宝塚市雲雀丘2丁目計画（2回目） ★☆☆☆☆

会長：前回からの変更部分についての説明を求めます。

設計者：前回からの変更部分について説明します。

- ① 近隣要望により別棟の自転車置場を中止し、建物内部に確保しました。
- ② 上記に伴い、エントランスホールの入口が東側に変更となりました。
- ③ 北側の生垣をレッドロビンから、いただいた意見によってより葉の密度の高いウバメガシに変更しました。
- ④ 北側の生垣を以前は50cm程度であったが、極力幅を確保して90cm程度（部分的に最小70cm程度）に厚みを持たせました。

- ⑤ 南側バルコニー等にあったマリオン部分に白いアクセントカラー使用していたが中止し、雁行している建物の凹凸での明暗により対応します。
- ⑥ 既存樹の植え替えについて、樹木医の意見により既存の樹環の下では育たないとのことなので、新植のソメイヨシノを北東角付近に配置しました。将来的に既存樹が朽ちてしまった時には、根から撤去して、生育の状況によるが植え替え等をしていくこととなります。

会 長：バルコニーが途中でルーバーになって、またガラスになったのはグレードの問題ですか。

設計者：どちらかというルーバーを採用したかったが、昨今の工事費の高騰により、ガラスにして近隣説明を行いました。そこから変えることにもいかないのでそのまま進めています。

会 長：前回も出たと思うが、洗濯物等の見えないような処理はしていただいているのですか。

設計者：乳白色のフィルムをサンドするとかで、そのままでは見えないような半透明のものにしようと考えています。

委 員：駐輪場が中に入ったのは良いですね。

委 員：既存樹も残すということですか。

設計者：掘ってみないとわからないが、既存樹の根を残すということが難しいということですので。

会 長：屋上緑化の話があったが。

設計者：基本的に必要であれば、今回は行なわないということです。

会 長：そうしたら、屋上の防水等について斜面地であり上から見られる部分となるため、材料を選定する際に配慮してください。

設計者：できるだけ外壁色にあったものとします。また屋根の真ん中部分に持って行って、下から見えないような配慮もします。

事務局：サクラ属になるウメ輪紋病というのがあり、雲雀丘は規制対象地域になっています。古木など枝打ちなどして出すことも制限があります。市では農政課になるが、直接国が事務を行っているためそちらにお問い合わせいただきたい。新たに持ってくることも制限されているので、今年2月より3年間は植樹も不可ということになります。地元はサクラを期待されていると思いますので、植樹の仕方を考えて、3年後以降に植樹することを話していただきたいと思います。

会 長：サクラの代わりに何か植えるのではなく、事業者が責任をもって、3年後にサクラを植えるようにしていただきたいと思います。

設計者：法律上規制されているというのでは、仕方ないと思いますが。

委員：敷地を囲んでいる目隠しフェンスの色はアルミ製のブラウンですか。

設計者：そうです。

会長：景観のデザイン的なところは特に問題がないということですが、サクラの木のことは事業者と相談してください。本日の審議はこれまでとします。